

学校への思い

学校は、あらゆる人の思いでできあがり、その総量で構築されていく。

現役の生徒一人一人の思いは、その時々によって大きく変わるだろう。心の底から熱中できることが見つかったり、話し相手に恵まれたり、部活動が思うように勝ち進んだり、学習がはかどったり、様々な人に褒められたりすると、心の底からこの学校にいることの喜びを感じるだろう。

しかし、その逆もあり得るのであって、熱中できることなど見つからず、なぜこの学校に入ったかと悶々と過ごしていく日々直面したり、話し相手にも恵まれず、部活動もぎくしゃくとしながら、学習もはかどらず、様々な人に注意されることばかりであったりすると、悲しみどころか恨み辛みばかりになることは間違いのないことだ。

ところで、長い年月が間に挟まると、どこか許せないことばかりだった学校への思いが変わってくることもしばしばなのだ。もう一度今立っているところから遙か彼方になったその3年間を見つめてみると、心がただ一筋に打ち込めていたり、人を思いやることができたり、純粋に一つのことにこだわっていることができたりしたことを思い出すものなのだ。

今回、同窓会名簿を作成して、同級生の住所不明者が多いのに驚いた。個人的にはどこに居るか知っている人も中にはたくさんいる。教員や県庁に勤める人たちの居所はある程度予想できるし、今からでも探すことはすぐにもできる。

個人的に載せてはくれるなという信号なのか、もはや高校時代など遠い昔のこととしているのか、様々な悪用を恐れているのかは判断が難しい。

でも、突然学校に来れることがあるなら、どうぞ顔を見せて下さい。今年限りで定年になるので、それまでできていただければ幸いです。

同級生ばかりでもなく、先輩の方々も後輩の方々も、教え子や遠い親戚の方でも、つながりのない人でも、この機会に母校を見ておきたいと思うことが少しでもあったときには、どうぞいらして下さい。

出張も多く学校を留守することも多分にはありますが、そのときは教頭にその旨申しつけていただければ幸甚です。

お仕事などがあって、正月や夏休みでもない限りは、その機会もままならないでしょうが、学校は基本、誰かいる場合がありますので、どうぞ電話などでお確かめになっていらして下さいと思います。

